

大阪府立布施工科高等学校 令和5年度 学校教育自己診断の結果と分析(令和5年12月実施)

【学校生活】「学校が楽しい」

肯定的評価

	R3	R4	R5	±
生徒	75 %	76 %	79 %	+3
保護者	79 %	77 %	82 %	+15

□コロナ渦で制限された学校行事であったが、令和5年度は、コロナ渦前の学校行事に戻りつつある年でした。2・3年生も初めての行事もある中で、1年間の教育活動が計画どおり実施できました。

【学習指導】「わかる授業」

肯定的評価

	R3	R4	R5	±
生徒	79 %	87 %	85 %	-2
教職員	89 %	95 %	98 %	+3

□教員同士の授業見学や研究授業で教材研究を行い、授業の工夫・改善に取り組みがみられた。特にICTを活用して授業のリズムや振り返りを行うことで生徒理解度が高まっていつ成果が表れている。今後も教員が生徒に寄り添った、「わかりやすい授業づくり」を推進する必要がある。

【生徒指導】「適切である」

肯定的評価

	R3	R4	R5	±
生徒	73 %	79 %	81 %	+2
保護者	64 %	83 %	86 %	+3

□生徒・保護者の肯定がともに増加し、本校の生徒指導が「適切である」という理解が80%以上得られている。今後も生徒・保護者の期待する確実性や客観性に基づいた指導を実践し、家庭との連絡を密にとりながら、より一層個々の生徒に合わせた丁寧な生徒指導を行う必要がある。

「納得できる」

肯定的評価

	R3	R4	R5	±
生徒	78%	82%	84%	+2
保護者	83%	82%	85%	+3

□「生徒指導への納得」について生徒・保護者の肯定が共に約80%以上を維持している。

日頃、教員からの声掛け、丁寧に行っている。今後も生徒・保護者の理解のもと、家庭との連絡を密にしての生徒指導が必要である。

【キャリア教育】「インターンシップ等の取組み」

肯定的評価

	R3	R4	R5	±
生徒	58 %	65 %	72 %	+7
保護者	85 %	94 %	96 %	+2

□今年度の「インターンシップ」は、2年生の全員が取組みで実施することができた。学校外で実践的に学べる経験が、肯定意見の増加につながり、「インターンシップ」に対する満足感が大きかったことがうかがえる。令和6年度のデュアルシステムの本格導入に向けて、今後も本校重点施策として取り組む必要がある。

【進路指導】「職業観・勤労観の育成」

肯定的評価

	R3	R4	R5	±
生徒	89 %	93 %	91 %	-2
保護者	85 %	90 %	93 %	+3

□肯定が90%台を維持している。今までのキャリア教育の積み重ねである。引き続き、望ましい職業観・勤労観の育成の充実を個々の生徒に合わせて、丁寧に行う必要がある。

【人権教育】「学ぶ機会が多い」

肯定的評価

	R3	R4	R5	±
生徒	90%	92%	92%	±0
教職員	89%	88%	81%	-7

□人権教育は、あらゆる教育活動のベースとなる。生徒への人権教育の機会を設け、90%を維持している。今後も、私たちは互いに違いを認め合い、共に学ぶ学校を築いていく必要がある。

【いじめ】「いじめ対応」

肯定的評価

	R3	R4	R5	±
生徒	85 %	88 %	90 %	+2
教職員	96 %	100 %	94 %	-6

□「いじめは絶対に許されるべきものではない」という強い姿勢、いじめの未然の防止対策が重要である。90%を超える肯定的評価を維持し「安全で安心な学びの場づくり」を学校全体で行う必要がある。